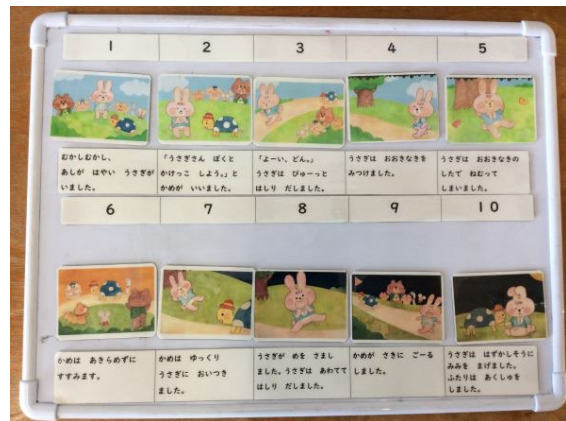


絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えることの指導 ～場面カード・マグネットシアターを使った事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2210
学習グループの実態	・ 小学部6学年（2名） ・ 2名とも簡単な音声言語でのやりとりができ、要求を言葉で伝えたり、教師の簡単な問い掛けに答えたりすることができる。 ・ 絵本に興味があり、読み聞かせを聞いたり、挿絵に注目したりすることができる。		
単元(題材)名	『おはなしを よもう きこう～うさぎとかめ～』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部3段階 [知識及び技能] イ (ア) [思考力、判断力、表現力等] C読むことーイ、エ		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	物事の始めと終わりなど情報と情報との関係について理解することができる。【[知] イ (ア)】 * 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。	絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えることができる。【[思] Cイ】 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすることができる。【[思] Cエ】	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする。【小学部3段階ウ】
単元(題材)の計画	(1) きいてみよう…「うさぎとかめ」の紙芝居動画を見る。読み聞かせを聞く。 (2) かんがえてみよう…物語のあらすじを読み、場面カードを順番に並べる。 (3) やってみよう…うさぎとかめ役に分かれ、マグネットシアターを操作したり、簡単な台詞を読んだりして役を演じる。		
指導の実際	・ 簡単な物語文を読む活動や場面の様子を読み取る活動に取り組んだ。導入は児童が注目しやすい動画を用いて行った。 ・ 読み聞かせに用いる紙芝居や場面カードは、動画と同じイラストを使って作成することで、場面をイメージしやすく、次の展開を期待して聞く姿が見られた。 ・ マグネットシアターは紙芝居に合わせて、表情の異なるうさぎとかめを用意することで、紙芝居と見合わせて適切な表情のカードを選び、操作することができた。 ・ 紙芝居の台詞の上には、役が分かりやすいように、うさぎはピンク、かめは緑のシールを貼ることで、自分の役の台詞に注目し、気持ちを込めて読んだり、教師の言葉を模倣して読んだりすることができるようになった。		



場面カード



マグネットシアターの教材



台詞カード